

巻頭言

2019年の年頭に当たって

農林水産政策研究所長 塩川 白良

明けましておめでとうございます。2019年の年頭に当たり、謹んでご挨拶を申し上げます。

皆さまにおかれましては、つつがなく新年をお迎えのことと拝察いたします。また、旧年中は農林水産政策研究所の運営にご理解、ご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

さて、本年は、十干が己（つちのと）で、十二支が亥（い）です。

「己」は、廣文庫（大正年間に刊行された百科事典）によれば「紀」であり、大漢和辞典（日本最大の漢和辞典）によれば「おさめる」という意味があります。「亥」は、同じく大漢和辞典によれば「陰気極まって陽気のきざすこと」という意味があります。

これを人間や組織で当てはめると、問題点を洗い出し是正した上で、次の段階に進む準備を行う年になると考えます。

ちなみに、一つ前の己亥の年は60年前の1959年（昭和34年）で、国民年金法の施行、天覧試合での長島選手の村山投手からの本塁打などがありました。さらに、もう一つ前の己亥の年は120年前の1899年（明治32年）で、改正所得税法、新商法、農会法の公布、「日本率先活動大写真」と称した最初の日本製映画の公開などがありました。

さて、当研究所は、この己亥の年にふさわしいように問題点を洗い出し、是正した上で、次の段階に進んでまいります。

具体的には、当研究所が持っている「調査・分析機能」では、毎年の政策課題を踏まえ、先進的な課題を設定して研究していくとともに、中長期的な課題にも取り組みます。また、研究体制を見直して、大学や他の研究機関、企業の研究者との連携も強化していきます。



「検証機能」では、EBPM（証拠に基づく政策形成）を推進するために、専門家としての知見や研究成果を行政部局に伝えます。現場で証拠をしっかりと捉え、行政部局が将来を見通したアウトカム目標が作れるように貢献します。

「コンサルタント機能」では、当研究所の専門家が、行政に携わる職員に対して掘り下げた情報を提供します。

「人材育成機能」では、研究発表、勉強会、行政に携わる職員の研究チームへの参画を通じて、若手職員の能力向上に貢献します。

「コーディネーター機能」では、当研究所の研究者はもとより、地方公共団体の職員、他の研究機関の研究者等の様々な関係者を広く集めて研究のプラットフォームを作り、その中で中心的な役割を果たします。

当研究所は、このような考え方にに基づき、行政部局・研究者のみならず、一般国民のお役に立てるように、全力で取り組んでまいります。

本年も一層のご支援を賜りますように、何卒よろしくお願い申し上げます。